平成３０年１１月１６日
（２０１８年）

保護者の皆様

吹田市立千里第二小学校
校 長　　豊留　由美子

平成３０年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、６年生を対象として「平成３０年度全国学力・学習状況調査」を実施し、９月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数・理科に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

今回の調査を客観的に分析することにより、どのような指導方法など教育活動が効果的であるかをしっかりと見極め、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。

各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習、生活の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

１，教科に関する調査結果と分析

●国語≪概要≫

正答率は全国値を上回っている。

◎国語Ａ（主として『知識』に関する問題）

・正答数分布は、12 問(12 問中)を頂点とする得点の高い右よりの山形を描き、8 問以上が 8 割近くであり、全国の状況と比べて高位層が多く低位層が少ない。

＜話すこと・聞くこと＞

・正答率は全国値をやや上回っている。

・相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例を挙げながら筋道を立てて話すことができている。

＜書くこと＞

・正答率は全国値を上回っている。

・物語を書くときの構成の工夫の説明として適切なものを選択できている。

＜読むこと＞

・正答率は全国値をやや上回っている。

・目的に応じて文章の中から必要な情報をとらえて読むことはよくできている。

・登場人物の心情について、情景描写を元にとらえることができている。

＜言語事項＞

・正答率は全国値を上回っている。
・主語と述語との関係などに注目して正しく書き直す設問において、全国値を上回るものの半数近くが誤答であった。
・慣用句の意味を理解し使うことは、よくできている。
・相手や場面に応じて適切に敬語を使うことは、全国に比べて相当数できている。
・漢字を文の中で正しく使う問題では、全国値を上回るものの、無解答率が高い。

◎国語Ｂ（主として『活用』に関する問題）

正答数分布は、5 問(8 問中)を頂点とする山形を描き、5 問以上が半数を超え、全国の状況と比べて低位層が少ない。

＜話すこと・聞くこと＞
・正答率は全国値を上回っている。
・発言の意図や司会の役割を捉えることは相当数できているが、他者の意見を取り上げながら自分の意見を記述する問題は、全国値を上回るものの、不十分な記述が多く課題である。

＜書くこと＞
・正答率は全国値を上回っている。
・目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えて選択する設問の正答率は全国を上回るものの、中心を明確にして詳しく書く記述式では、出された条件を十分満たさない解答が多く課題である。
・推薦するためには、他のものと比較して書くことで良さが伝わることを捉えている児童が相当数いる。

＜読むこと＞
・文章を選んだ目的を選択する設問では、正答率は全国値を下回っており、課題である。

＜読んで書く＞
・正答率は全国値を上回る。
・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にして読み取ったことを基に文章を書くという問題では、無解答率が全国値に比べ低いものの、条件を満たさない解答も相当数ある。

★国語科における成果と今後の指導改善点について

【言語事項】
・主語と述語との関係を注意して読み書きをする習慣、日常的にも敬語や慣用句を使っての会話や作文を指導する必要性を感じました。

【話す、聞く】
・質問紙調査から、平素の授業の中で、自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表できるような場面を自覚している児童が多いことがわかりました。今回のような調査様式では、文字からの内容把握という「読む・書く」の課題との関連で数値が表れているものがあり、単純に「話す・聞く」領域での成果を捉えにくいものの、今後もさらに、①伝える内容を明確にして、②他者との考えを比べたり取り入れたりして自分の考えを話す活用の充実に取り組みます。

【読む】

・目的に合わせてどこに着目して読めばいいかを焦点化する必要から、目次や見出し、キーワードなど必要な情報を選択できる手立てを指導していきます。読んだ本の主題やメッセージを相手に伝えるなどの学習にも取り組んでいきます。

【書く】

・構成を工夫して書くことができるよう、複数の物語の構成の型を習得したり、相手や目的を明確にして文章を書いたりする指導をしていきます。また、複数の条件を満たした文章を書く学習も取り入れていきます。

●算数≪概要≫

・正答率は全国値を上回っている。
・Ａ(知識)問題よりもＢ(活用)問題の全国比値が高い。

◎算数Ａ（主として『知識』に関する問題）

・正答数分布において、10 問以上(14 問中)正答した児童の割合が半数近いものの、5 問から 9 問正答率も３５％であり、中位層も相当数ある。
・「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の全ての領域において、全国を上回っている。

＜数と計算＞

・全問、正答率は全国値を上回っている。
・問題を読み、そこから式を立てることはできるが、式から問題を予想する力は弱い。

＜量と測定＞

・日常生活でイメージしやすい問題は、正答率が非常に高い。
・角度を求める問題は、全国の正答率を下回っている。

＜図形＞

・「空間の中にあるものの位置を正しくかく」ことは、全国に比べると正答率が高い。
・円周を求める公式を覚えていても、円周率を求めることができていない。

＜数量関係＞

・割合の計算の正答率が低い。（「もとにする量を求める問題」「こみぐあい」）
・時刻と気温の変化を求める４つのグラフから記述に基づき正しいグラフを１つ選ぶ問題では、２つまでは正しく絞り込めているが、最後の判断で間違いが多い。

◎算数Ｂ（主として『活用』に関する問題）

・正答数分布は、10 問中 6 問～8 問の正答率が半数近くあり、中位層以下も相当数である。
・「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の全ての領域において、正答率は全国を上回っている。
・記述式の問題では、誤答や無答率が全国値よりは低いものの、選択式・短答式に比べて高いことから、数学的な考えを記述的に表す力が弱い児童が相当数存在する。
・選択式の問題においても無解答率が一定数あることから、題意を数学的に読み取る力が弱い児童が一定数存在する。
・数量関係を問う問題が他の領域に比べて低いことから、数量関係をとらえる力が低い。

＜数と計算＞

・全体量と必要量を複数の観点（色紙の枚数、輪の個数、輪の本数）で比べる問題で、言や数式を用いて説明する設問では、全国値より正答率はかなり高いものの、不十分な解答も多く課題である。

＜量と測定＞

・メモに書かれた情報の中から、必要な情報（２種類の数式）を抽出して活用する力に課題がある。

＜図形＞

・図形の性質（角の大きさ）や角の総和について、提示されている情報を活用して解答する設問では、全国値に比べて正答率はかなり高い。一方、無解答率も１０％近くあり、課題である。

＜数量関係＞

・数量の変化に着目し、言葉や数を使って説明する設問では、全国値より正答率は高いものの不十分な児童も多く、課題である

・２つのグラフから、量と割合の関係を問う設問では、誤答の割合がかなり高く課題が大きい。

◎算数に関する質問紙より

・書く問題をどのように解答したかについては、全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した児童が全国値を上回り、経年比較でも増加傾向にある。

・算数の授業の内容はよく分かるかについては、全国値を下回る結果にはなったが、８０％を超える児童が分かると回答している。

★算数科における成果と今後の指導改善点について

【数と計算】

・言葉や数式を使って説明することに課題がある児童が多いことから、そういう場面を授業に多く取り入れていきます。

・問題を読み、立式することができているが、式から問題を予想するという力が不足しています。一方通行の思考回路になっているので、「問題から式を考える」という思考だけでなく、「式から問題を考える」という考え方を授業にも積極的に取り入れていきます。

【量と測定】【数量関係】

・グラフを複数の観点（総数、差、共通点など）からとらえる学習を低学年から積み重ねていきます。

・グラフを読み取る際に、着目した点（観点）をはっきりさせて話し合う活動を取り入れていきます。

【図形】

・円周の公式から円周率を求める問題の正答率が低かったことから、公式を丸暗記しているだけになっており、式の意味を理解できていないと考えられます。公式を覚えればよいというのではなく、その公式の成り立ちをじっくり学習していきます。

【全般に】

・説明をさせる場面では、①題意からキーワードを考える、②キーワードを使って言葉の式や短い説明文（２～３行以内）を書かせるなど、説明作業をステップアップ式にして

説明力をつけられるようにしていきます。
・提示されている情報の中から、問題解決に有効な情報（数量、数式、算数用語）を抽出して活用する活動を多く取り入れます。
・問題の内容が日常生活の中でイメージしやすいことが、今回の学力テストでも正答率が高いという結果からわかりました。このことから、授業の導入では身近な話題から問題に入っていくと効果的であると分かりました。
・問題が終盤に近づくと、無解答率が上がっています。問題文が長く、設問の意図を理解することに課題がある児童が多く、読解力を向上させる必要性がわかりました。
・問題を最後まで解いたり内容は理解していたりするが、算数の学習意欲、実生活や将来に結びつくかを問われる項目については、例年と比較しても肯定的な児童が減少しています。他教科では学習意欲も高い結果が出ていることから、教科書の問題だけでなく、学習したことが役立った経験を想起させるなど、実生活での活用を意識した授業作りをしていきます。

●理科

◎教科に関する調査

○平均正答率は、全国値を上回る結果であった。
○正答数分布は、１６問中１３問を頂点とし、全国の状況と比べて低位層が少なく高位層が多くなっている。
○「物質」「エネルギー」「生命」「地球」のすべての領域において、正答率は全国値を上回っている。
○目的に合ったものづくりの方法や主として活用に関する問題は正答率が高かった。
○「エネルギー」の領域では、目的を設定し、計測して制御する活動が日頃の学習でしっかり行われているため、その正答率は全国を大きく上回っている。
○△「物資」「エネルギー」「地球」の領域において全国と比べ本校児童の無解答率は低く、「生命」の領域においてやや高くなっている。
△「短答式」の問題の平均正答率が、全国をやや下回り無解答率も高くなっている。
△「関節」「堆積」など科学的な言葉や概念、適切な名称を理解することに課題がある。
△自然事象について関心はあるものの、知識理解を問う問題の正答率は全国値をやや下回っている。
△適切な実験技能の理解について、全国値をやや下回っている。
△「物質」の領域では、物の溶け方の規則性を、体積が増えた食塩水に適用することに課題がある。
△実験結果を基に分析・考察し、その内容を記述する問題の平均正答率は、全国を上回っているが平均正答率は 23.6%と低く、課題である。

◎理科に関する質問紙より

○「理科の勉強は好きですか。また、観察や実験を行うことが好きですか。」という質問において、約９割の児童が「当てはまる・どちらかと言えば当てはまる」と回答していることから、理科学習に関する意欲が大いにあることが分かる。本校における経年変化をみても前回調

査を大きく上回ってる。

○「理科の授業内容はよく分かりますか。」という質問では９割以上の児童が「当てはまる・どちらかと言えば当てはまる」と答え、全国を上回っており前回調査より２０ポイント以上高くなっている。

○約８割程度が理科の勉強は大切だ、将来社会に出たときに役に立つと考えている。

○理科の授業において理科室で観察や実験を週１回以上、またはさらに多くの回数行われていることが児童の回答から分かる。週１回以上行っていると答えた児童は全国値の２倍近い値になっている。

△自分の予想をもとに観察・実験を行い、結果からどのようなことが分かったのかを考えている児童は、ほぼ全国なみにいるのに対して、自分の考えを振り返り、周りの人に説明したり、発表したりすることが少ないと思っている児童が全国と比べて多くなっている。

△自然の中で遊んだことや自然観察をしている児童は８割以上いるが、全国値をやや下回っている。

★理科における成果と今後の指導改善点について

・科学的な言葉や概念を理解することができるようにするため、日頃の学習において言葉の意味を的確に捉えることができるように実際の自然の事物・現象に適用して丁寧に説明していくようにします。

・器具の適切な操作方法を身に付けることができるようにするために、器具の操作手順の理解だけでなく、器具を使用する目的や操作の意味を理解させ、観るだけでなく実際に操作する時間をできる限り保障していきます。

・複数の情報を関係付けながら多面的に分析して考察できるようにするために、複数の情報を収集して児童同士が共有し、それを関係付けたことの話し合いを重視した学習活動に取り組ませます。

・学んだことを自然の事物・現象に適用できるようにするためにも、既習の内容や生活経験と関係付けて話し合う場面を学習のなかで設定していきます。

・自然の中でも特に生物にさらに興味関心を持たせるために、生物に直接関わる実際の観察場面を保障し、安全への配慮や生物への影響について考える場面を設定するような授業展開をしていきます。

・自分の考えを、根拠を示しながら記述できるよう、日頃の授業において実験観察の予想や結果の考察等を自分の言葉で書けるようにスモールステップで指導していきます。

２．生活習慣や学習環境等に関する調査結果と分析 ■は課題 □は良好

＜自尊感情・自己肯定感・達成感・夢や目標・規範意識＞

■「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、「当てはまる」と回答した児童は 32.5%。大阪府は 39.1%、全国は 41.2%である。「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は、大阪府や全国と比較すると１ポイント程度高いものの、全体として自尊感情が低い。

■「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に対して、「当ては

まる」と回答した児童は 31.2%と、大阪府や全国と比較して、10 ポイント程度低い。また、「どちらかといえば当てはまらない」と回答した児童も 20.4%と、大阪府や全国と比較して 10 ポイント程度高くなっている。自己肯定感が低いことがわかる。

■「将来の夢や目標を持っていますか」に対しては、「当てはまる」と回答した児童は 63.1%と、大阪府 66.4%、全国 68.2%と比較すると低い。

■「学校のきまりを守っていますか」に対しては、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせると 81.6%であり、大阪府や全国と比較すると 5 ポイント低い。

■「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対しては、「当てはまる」と回答した児童は、78.3%（大阪府 85.2%、全国 85.9%）と低い。

□「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対しては、大阪府や全国と比較しても、ほぼ同程度の値である。

★傾向と課題・今後の改善のポイント

自尊感情や自己肯定感が低い児童が多くみられることから、授業や学級活動場面で児童一人ひとりの良さを認め、広めることが教師に求められていることがわかります。自分も他者も大切にする豊かな心を持ち、規範意識を高めるよう指導していきます。

＜生活習慣＞

□「朝食を毎日食べていますか」に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童は、95.6%（大阪府 92.9%、全国 94.5%）であり、大阪府や全国と比較するとほぼ同程度の値である。

□「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童は、80.3%（大阪府 73.8%、全国 77%）であり、全国と比較すると 3 ポイント程度高くなっている。

□「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童は、87.3%（大阪府 86.8%、全国 88.8%）であり、大阪府や全国と比較するとほぼ同程度の値である。

★傾向と課題・今後の改善のポイント

基本的な生活習慣が身についており、ご家庭での働きかけもあり規則正しい生活を送れている実態がうかがえます。

＜家庭学習＞

□二時間以上家庭学習している児童は、38%。大阪府や全国的に比べると高い。

■隙間時間の読書はよくしているようであるが、読書として時間をとっているようではなさそうである。一時間未満が多く、一時間以上は 2 割程度。

■宿題は 9 割できているが、予習・復習をできている児童は、全国は 6 割だが、本校は半数に満たず低い。塾や習い事に通う児童が多く、時間の確保が難しいと思われる。

★傾向と課題・今後の改善ポイント

ゲームやスマホに向かっている時間が長くなっていることを懸念します。読書で得られる知識や感性を豊かにし、自ら学ぶ課題を見つけられるような働きかけを学校でも家庭でも行っていく必要があります。

＜家庭の教育力＞

□「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか」に対して、「し

ている」と回答した児童は 49%（大阪府 50.8%、全国 52.8%）であり低いが、「どちらかといえば」を加えると、大阪府や全国よりやや高くなっている。

■「新聞を読んでいますか」に対して、「ほぼ毎日読んでいる」と回答した児童は 9.6%（大阪府 5.8%、全国 7.4%）であり、大阪府や全国と比較すると 2 ポイント程度高いものの、「ほとんど、または、全く読まない」と回答した児童が 62.4%おり、全体として新聞を読んでいる児童が少ない。

■「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか」は、「よく見る」が 51%で、大阪府や全国と比べて低い。

★傾向と課題・今後の改善ポイント

ご家庭で、社会で起きていることを話し合ったりする時間をとって欲しいものです。選挙権の年齢が下がったことも踏まえ、よりよい社会への関心を深めてください。

＜地域・社会への関心＞

□「５年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があった。」では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童は、77%と全国・大阪府に比べて多い。

■「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の設問では、「当てはまる」が全国・大阪府に比べて、10～20 ポイント低い。

□「地域や学校で起こっている問題や出来事に関心がありますか」では、「どちらかといえば当てはまる」が全国平均の 37.0%に対して 40.1%と少し高い。

■「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」は「どちらかといえば当てはまる」を加えても半数以下で、全国値より低い。

□■５年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う児童は、77.7%と半数以上が当てはまっているが、今住んでいる地域の行事には約 63%の児童は参加していないことが分かった。

★傾向と課題・今後の改善のポイント

前年度までに、地域の人材を外部講師として招聘した授業を受けたことを自覚している児童が多いことがうかがえます。一方、自分から進んでの地域への働きかけは少ないようです。地域で自分たちのために活動してくれている大人に触れることは、大人になってからのボランティアマインドの醸成につながります。今後、地域行事の紹介や参加呼びかけを積極的に行っていきます。

３．今後の学力向上の取り組み

読解力・論理的思考力・説明力の向上については、以前より、また全国的にも重要な課題であり、授業改善や平素の日常生活で取り組まなければならないと改めて確認しました。また、宿題等家庭学習の充実に期するところも大きく、家庭学習のあり方についても見直しを行って参ります。

質問紙調査から見えてきた様々な課題解決に向けては、ご家庭と学校との連携が大切です。子どもたちの生活習慣・学習環境の確立のため、今後ともご家庭でのご協力をお願いいたします。